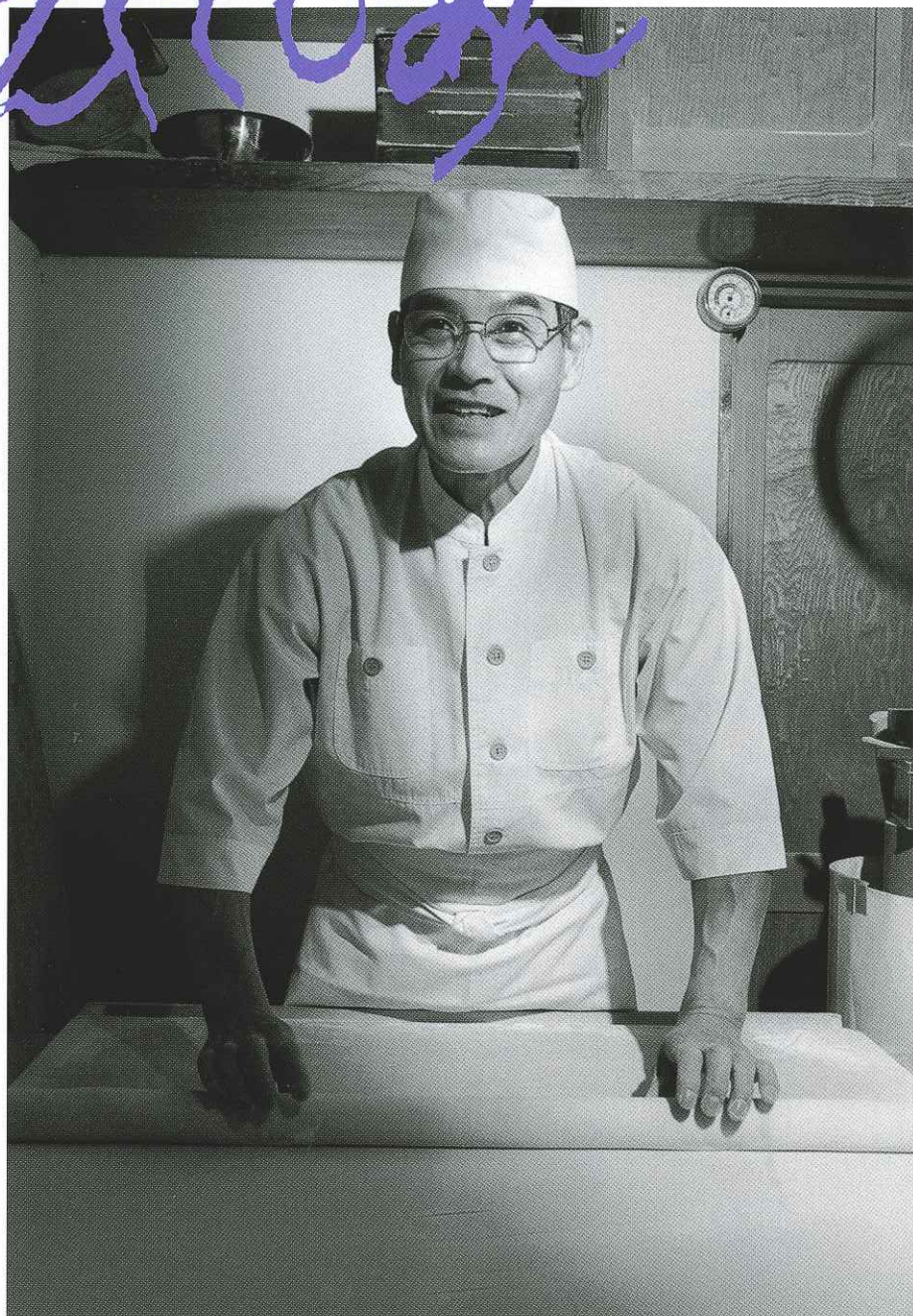


# 元気で働く

11

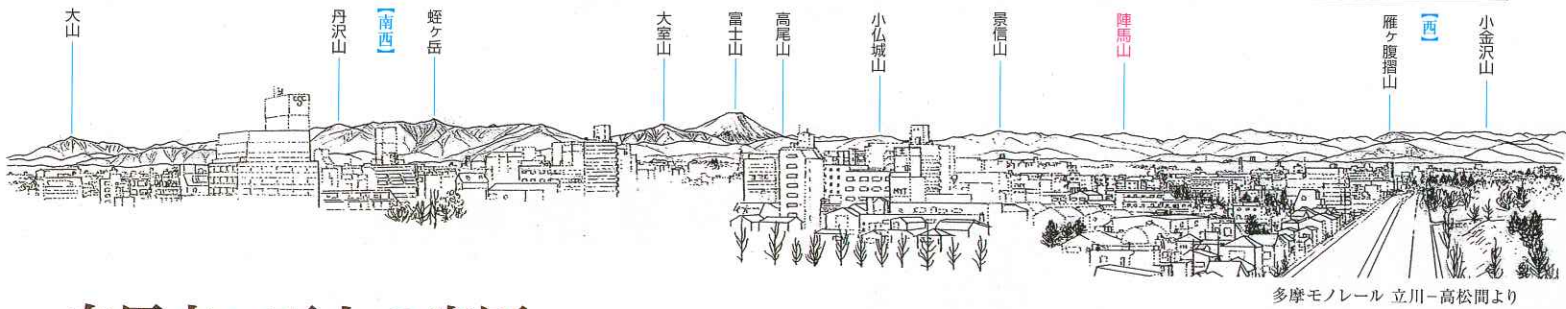
立川と語ろう 立川に生きよう  
November 2006  
écoutez bien Vol.25 No.264



# 陣馬山

案内人: 守屋龍男 写真: 中村 伸  
山岳展望図: 藤本一美

857m



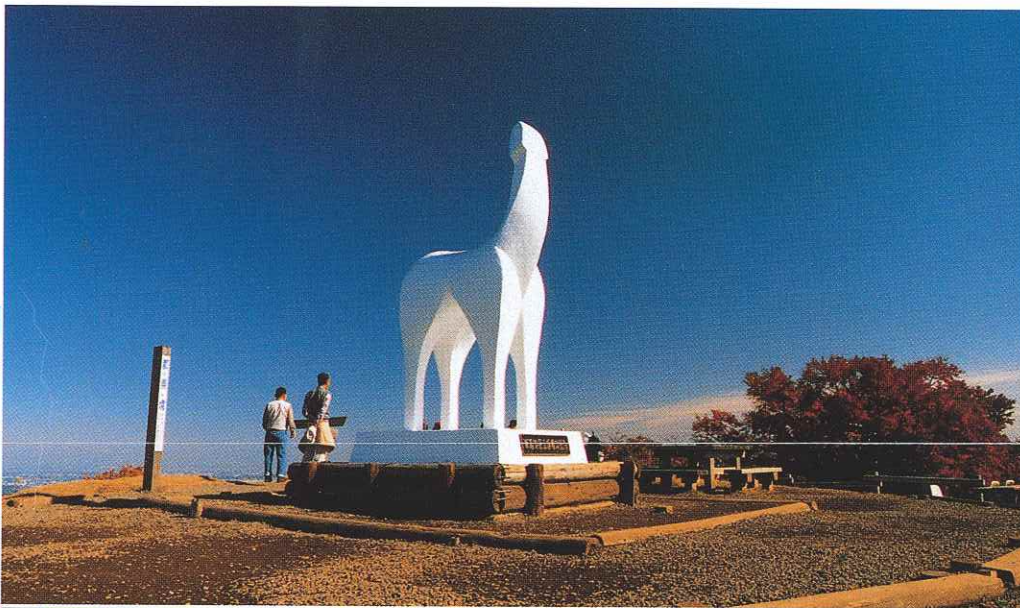
## 白馬立つ天上の楽園

### [陣馬山へのコース]

八王子駅→バス→陣馬高原下バス停→1時間 20分  
→和田峠→30分→陣馬山→20分→八王子山の家  
跡地→新道経由 50分→車道と合流→20分→  
陣馬高原下バス停

### ◎その他のコース

陣馬山→1時間→栃谷集落→20分→陣馬温泉(栃  
谷温泉)→30分→陣馬山登山口バス停→藤野駅



陣馬山には小学校の遠足で登ったという人が多い。多摩の山々では高尾山や御岳山についてよく知られた山である。

元々は戦国時代に武田信玄方と北条氏照方が対峙し、互いに陣を張ったことから陣場山といわれていたが、昭和30年代に白馬の像が設置されて以来、陣馬山の方が定着した。

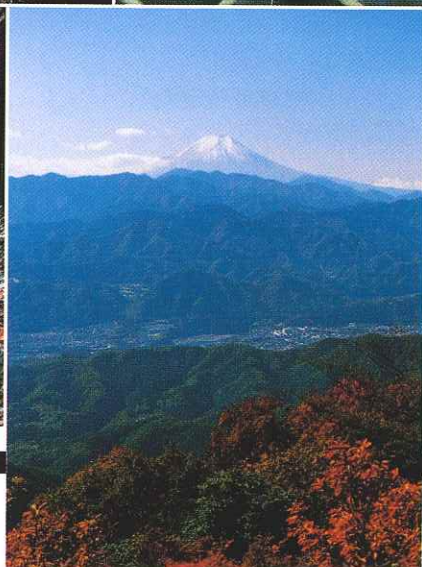
秋晴れの日、登ってみた。陣馬高原下のバス停付近の駐車場に車を止め、和田峠に向かって車道を歩く。平日だったので車も少なく快適に歩けた。

和田峠からは300段ほどの木の階段を汗をかきかき登る。登りきると広々とした草原に出る。ここはもう山頂の一角である。爽やかな風が吹き渡り、紅葉した樹々を背景にギボウシ、ノコンギク、ワレモコウなどの山野草が一斉に揺れる。

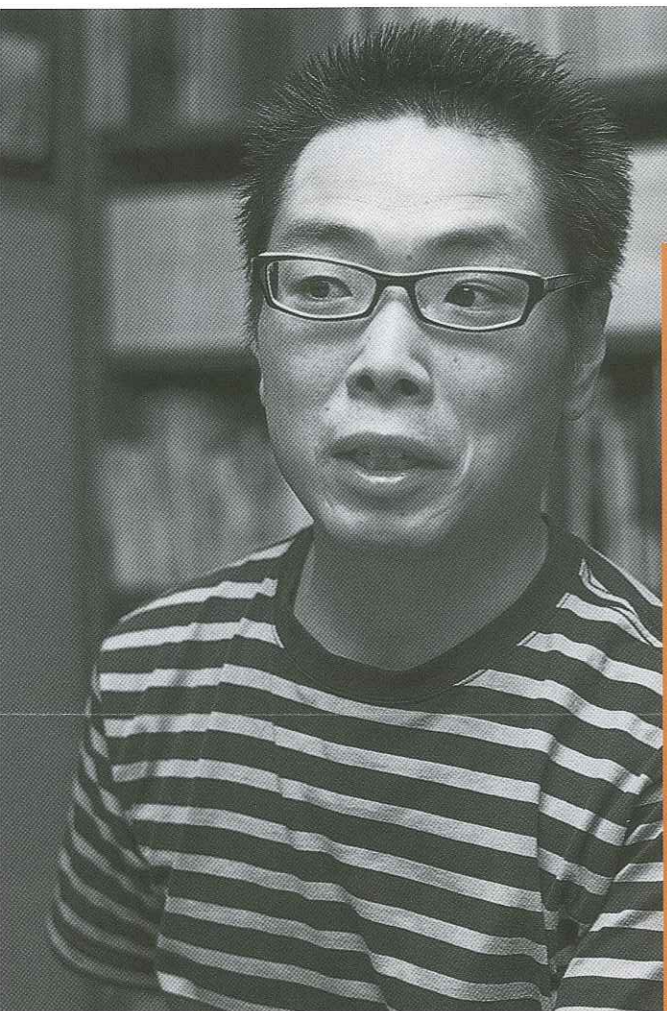
白馬の像が立っている山頂からは360度の大パノラマが広がる。富士山が雄大に屹立し、その奥に南アルプスも見える。丹沢山の向こうには白く光った海が見える。航行する船舶も目視できる。茶店の主人は「甲板の船員が手を振っているよ」と冗談をいう。

下山は八王子の山の家跡地を経て、近年開通した陣馬高原下に出る新道を下る。オタカラコウやツリフネソウが咲く急な尾根をジグザグに下り、ヒヨドリジョウゴの実が絡みつ়フェンス沿いの道を通り、バス停に戻った。

紅葉の山岳パノラマ、そして山野草と一緒に堪能した一日であった。



# 笑っていただけって、ありがたい



## 25周年 50回記念会を開く立川落語会 会長 笑南亭南笑さん

■笑南亭南笑(しょうなんてい・なんしやう)／本名・高梨慎也。高座名は住んでいる(湘南)から。演芸雑誌の立川落語会の会員募集を見て8年前に入会。現在35歳で会員中最若手ながら、今年から会長をつとめる。11月11日には25周年、第50回記念落語会の高座を控え、稽古に運営準備にと、汗を流す

■芳賀敏博(はが・としひろ)／えくてびあん編集人

於：曙町 えくてびあん編集工房 写真：小林達夫

**芳賀** この前(9月9日)は多摩地域の三落語会合同の「三落会」でトリ、おつかれさまでした。「鹿政談」おもしろかったですよ。11月11日には同じアムホールで立川落語会の50回記念会ですね。

**南笑** ありがとうございます。「三落会」は毎年、多摩、青梅、立川の三つの会の持ち回りで、今年はちょうど立川の番だったんです。当番の会長がトリという決まりなので私がつとめまして……次はいよいよ50回記念の会ですからメンバー一同張り切っています。

**芳賀** アマチュアの落語会が25年間、春と秋の年2回、自前の落語会を続けてきたというのはすごい。僕がみなさんの高座を聴かせていただくようになってま

だ5、6年ですが、回を重ねるごとに確実に上手くなって。南笑さんは中でも一番の若手ですけど、会に入ろうというきっかけがあったんですか。

**南笑** たまたま演芸雑誌の情報欄で立川落語会が会員募集中というのを見て、入れてもらいました。当時は都内に勤務し仕事もかなりハードだったので、何か趣味で発散したい気持ちもありまして。1998年6月の入会ですから、今年で8年になります。

**芳賀** 学生時代に落語研究会とかでやってらしたんじゃないんですか？

**南笑** いいえ。まあ小さい頃ちょうど漫才ブームがあって何となく舞台に立ちたいという気持はありました。落語は高校

時代の同級生の影響で好きになり、寄席に通いましたけど、自分で高座に上がった経験はないんです。それでも入会した秋にはもうアムホールの高座(笑)。

**芳賀** まるっきりの初心者が、ですか。

**南笑** その時は夢中で何も覚えていないんですけど、ビデオで見ると手は震えているし、声も出ていない。今も上手くはないですけど、我ながら下手だなあと(笑)。コーラスと一緒に腹式呼吸ができないと声は出ないんです。ちゃんと声が出るまでに2、3年かかりました。それに最初は客席から笑いがこないんです。焦るとますます間が悪くなる。自分でも後から気がついたんですが、ふだんから早口なんです。今でもちょっと油断するとモゴモゴとなる。お客さまの笑いを待つ間を持てるようになるまで、しばらくかかりました。

**芳賀** 何ごとも鍛錬が必要なんだなあ。でも、人を笑わせる、楽しい気持ちにさせるというのは素晴らしいことじゃないですか。昔の親はよく「人に笑われるような人間になるな」と言いましたけど(笑)。

**南笑** 今は事務職ですが、高齢者の介護をしていたことがあります。お年寄りにとって笑うことは脳の刺激にもなって大事なことなんです。落語をやって良かったなと思うのは、まずは声が大きくなったこと(笑)。それに、人に笑ってもらって笑っていただける嬉しさを知ったことですね。老人施設などから声をかけていただいて、そんなに長い事はできませんから小断なんかしても笑って喜んでいただける。自分自身の生きる張りあいでもあるんです。そういう意味で、亡くなった林家三平師匠は凄いなあと感じますね。古い映像を見ても本当に可笑しい。古典

落語をきっちり演じたいというのと別に、ああいう天衣無縫なアドリブにもあこがれます。

**芳賀** 三平さんの芸は天性みたいなものですね。アドリブで笑いを誘う問って誰でもできそうで、難しいでしょ。

**南笑** 高座度胸というか、経験を重ねて身につけるしかないんですね。あとはふだんからの稽古。

**芳賀** ふだんのお稽古はどんなふうにするんですか？

**南笑** 月2回、中央公民館でしています。会議室の机やテーブルに座布団を敷いて、ひとりずつ断をする。ひとり終わったら、みんなで批評し合うという形です。

**芳賀** 昔の噺家さんは、弟子入りして雑用をしながら、そのうち師匠が、稽古をつけてやろう、と口移しで断を教えてくれるというような修業をしたといいますが……。

**南笑** 三べん稽古といって、3回師匠が差し向かいで断をしてくれる。4回目には師匠の前で断ができるようになってくちやいけなかったっていいですね。録音技術のない時代とはいっても大変なことですよ。

**芳賀** みなさんは、どうやって断を選んだり覚えたりするの？

**南笑** われわれの場合、やりたい断、好きな断をCDとかビデオで聴いたり書き起こしたりするわけですが、スッと覚えられる断もあれば、1月以上かかる断もあります。もちろん月2回の稽古では足りませんから自宅でもする。ひとりでブツブツ言っているのはちょっと気味悪いですけど(笑)。覚えただけではダメで、登場するそれぞれの人物設定をして、それを自分の言葉で語り分けないといけない。これが難しいんです。現代のわれわれには分から

ない吉原の作法とか、お侍の所作などもあります。自分で調べたり会員同士でこうした方がいいんじゃないかと意見を出し合い、本番の前にはプロの師匠に見ていただいて稽古をつけてもらいます。

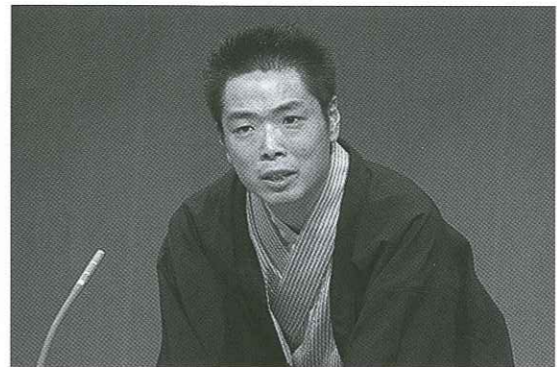
**芳賀** そういう会員同士の切磋琢磨というか、個性のぶつかり合いも上達につながるんでしょうね。客席から拝見していても、それぞれに個性豊かな方たちです(笑)。

**南笑** そここがいいんです(笑)。同じような個性や好みを持った人たちばかりなら、聴いているお客さまは飽きます。いろんな個性や断があるから面白いんじゃないかと……。

**芳賀** それをまとめる会長というのも、なかなか大変ですね。しかも25周年、50回記念という節目です。

**南笑** 3年ずつの交替制で会長ということになりまして、今までは自分の高座だけ考えていればよかったんですけど、いい勉強の機会をいただいたと思っています。特別なことはありませんし、これまでもそうだったんですが、寄席のような——トリの大断もあれば、短い断もある、大喜利、小断もある。個性豊かなメンバーそれぞれが役割を担って、お客さまが最後まで飽きずに過ごしていただける。そういう楽しい雰囲気大事にしていきたいと思っています。50回記念会も、楽しい会になると思いますよ。

**芳賀** 楽しみに、ぜひうかがいます。



幸町	ドイツ製法ハム・ソーセージ ゼーホフ工房	幸町4-59-4 535-5009
幸町	和洋菓子 たちばな	幸町5-2-16 537-0347
幸町	BSタイヤショップ 佐藤商会	幸町5-10-2 537-0912
幸町	古楽の小屋 ロバハウス	幸町6-22-32 536-7266
幸町	めがね・とけい補聴器 カワハラ	錦町1-1-25 525-4427
幸町	鳥料理 くし秀	錦町1-2-3 522-7692
幸町	御菓子司 やな瀬	錦町1-3-12 522-3969
幸町	宮地楽器 MUSIC JOY 立川	錦町1-3-21 526-1779
幸町	中国料理 五十番	錦町1-4-5 522-7472
幸町	手づくり味噌の材料専門店 北島こうじ店	錦町1-4-28 524-3190
幸町	new gyoza1059 餃子天国	錦町1-5-6-1F 526-2283
幸町	イタリアンダイニング asa	錦町1-5-6-1F 529-5668
幸町	ワインバー パルアラディ	錦町1-5-6-1F 523-3917
幸町	テーブルウェア H.works	錦町1-5-6-2F 521-2721
幸町	手うち蕎麦 なかさ	錦町1-5-22-1F 524-5758
幸町	中国気功整体院 立川院	錦町1-5-22-1F 529-1088
幸町	焼きたてパンの店 ヴァイツェンブロー	錦町1-6-19 527-2176
幸町	日本クッキングスクール	錦町1-7-31 522-3440
幸町	ステーキレストラン リブレ	錦町1-8-3 527-1630
幸町	和菓子処 ゆうき	錦町1-8-5 525-0780

えくてびあんの輪

立川と語ろう 立川に生きよう  
えくてびあんは  
リストのお店にいつもあります

今月は 幸町・錦町のお店です。

幸町	ザ・クレストホテル立川	錦町1-12-1 521-1111
幸町	美容室 アリス	錦町1-15-21 525-1100
幸町	パンと洋菓子 うちのやブルマン	錦町1-18-7 524-9280
幸町	そば処 そば菜	錦町1-20-15 522-7558
幸町	画廊 無門庵ギャラリー	錦町1-24-26 529-2323
幸町	駄菓子・ファンシー むぎぼたけ	錦町2-1-1 526-0210
幸町	美容室 FALCO	錦町2-1-10 528-2389
幸町	諸官公庁御用達・日用雑貨 池田屋	錦町2-1-10 522-3731
幸町	N HAIR WORLD	錦町2-1-18-1F 523-5336
幸町	しゃぶしゃぶ・鍋料理 しゃぶりん	錦町2-1-33-3F 527-2228
幸町	スペイン料理 TAPAS	錦町2-2-29 529-0733
幸町	Bakery Cafe Crown	錦町2-4-2 526-2226
幸町	三田花店本店	錦町2-5-23 524-4187
幸町	(有)朝日屋酒店	錦町2-6-12 525-6333
幸町	にしやま薬局	錦町2-7-8 525-9212
幸町	パスタの店 パセリ	錦町3-1-21 525-8486
幸町	アミューたちかわ	錦町3-3-20 526-1311
幸町	多摩信用金庫 錦町支店	錦町3-6-9 528-0511
幸町	そば処 高尾亭	錦町5-5-31 522-2710
幸町	Natural Food Restaurant シェイなば	錦町5-19-9 529-5921

# 秋の夜長は、虫を聴く

## 残堀川・鳴く虫愛好会

更けゆく秋の夜、草むらから聴こえてくる虫たちの音。最近、樹の上に棲む外来のアオマツムシばかりが耳につくが、秋の虫の音は日本的情緒そのもの。鳴く虫を増やし、自然の中で聴く環境を整備しようという試みが、砂川で始まった。

写真：小林達実

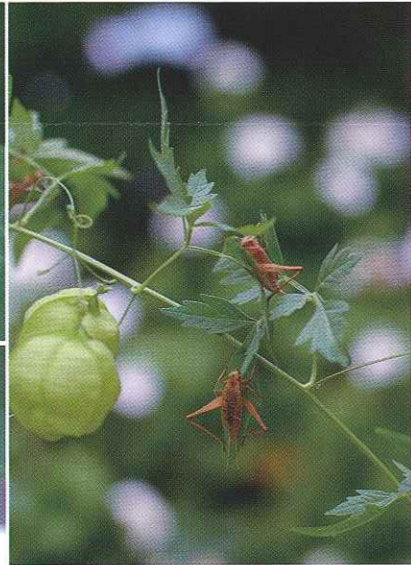


坂上会長(中央)と「残堀川・鳴く虫愛好会」の皆さん



カントク

下の写真・キリギリス



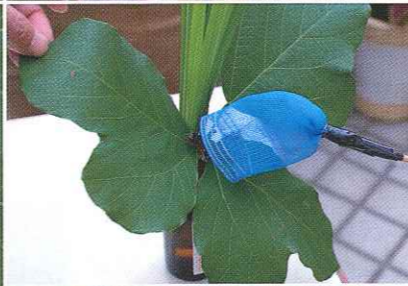
虫を飼育する箱箱……



飼育箱内のスズムシ



カントクが草茎に卵を産みつけた跡



虫の移動には小さな網を使う



クサキリ

上の写真：マツムシ 下の写真：エンマコオロギ

9月の夕暮れ時、残堀川緑道に沿った下砂橋遊び場の脇に、大人や子どもが集まった。「残堀川・鳴く虫愛好会」(坂上 實会長)が呼びかけた、鳴く虫を聴く会。

草の刈られた公園や、増水でやや荒れが目立つ河川敷、車が頻繁に通る道沿いのフェンス際……こんなところに虫がいるのだろうか？と不安になるが、夕闇に包まれてしばらくすると、樹の上から降るうさいほどのアオマツムシの音とは違う、虫の音が聴こえてくる。「ほら、聴いて。マツムシだよ」。植え込みの向こうで、確かに〈チンチロリン〉と鳴いている。

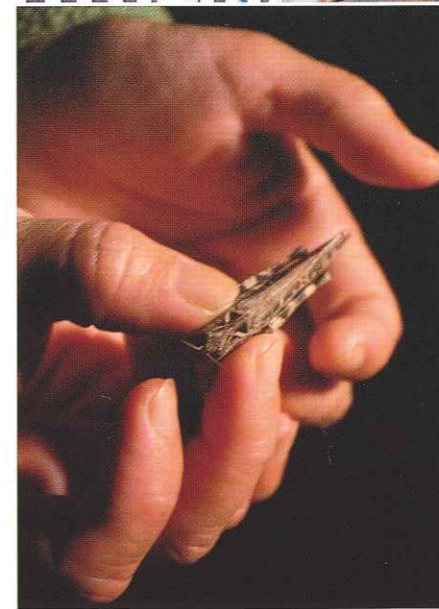
案内について歩いているうちに耳が慣れてくるのだろうか。あちこちでマツムシやカントクが鳴いているのに気がつく。クズなどの餌になる植物や、卵を生みつけるアカザやヨモギが生える藪や草むらを頼りに、虫たちは健気に生きている。

「残堀川・鳴く虫愛好会」は、砂川地域で鳴く虫を飼育し、増やした虫を自然の中に戻してきた人たちが集まって今年発足した。この道40年の大ベテランもいれば、飼育を始めて間もないメンバーもいるが、共通するのは虫好き。それぞれが独自に蓄積してきた知識やノウハウを提供し合い、地域ぐるみで鳴く虫が住める環境づくりを目指そうと、夢は広がる。

「鳴く虫が棲める環境は、住民や子どもたちにとっても自然豊かな望ましい環境と言えます。虫を愛することを通じて住民同士も知り合える」と坂上 實会長。鳴く虫を通して、人の輪も広がる。



橋の上から残堀川の虫を聴く



道路沿いのフェンス際にカントクが鳴いていた



立川と多摩地域が  
もっと楽しいホームページ

多摩ではこ  
ネット

http://www.tamatebako-net.jp/

多摩ではこネット編集工房  
〒190-0012 立川市曙町3-4-3 武蔵ビル2F  
tel 042-548-9606 fax 042-548-9609  
e-mail message@tamatebako-net.jp

常楽我浄

真如苑提供番組くじょうらくがじょう

スカパーフェイクTV 216ch、マイテレビ 84ch

土 曜 午前9時～9時15分  
午後7時15分～7時30分  
再放送/火曜 午前9時～9時15分  
午後7時45分～8時  
放送時間は予告なく変更する場合がございます。

立川に育てられて七十年

真如苑

柴崎町1-2-13 Tel. 527-0111(代)



パレスホテル立川

〒190-0012 東京都立川市曙町2-40-15

お問い合わせ、ご予約は

TEL 042-527-1111

FAX 042-527-5169

http://www.palece-t.co.jp

### この人この店 ④

## お好み焼ともんじゃ焼 こけし

オーナー  
長島正一郎さん

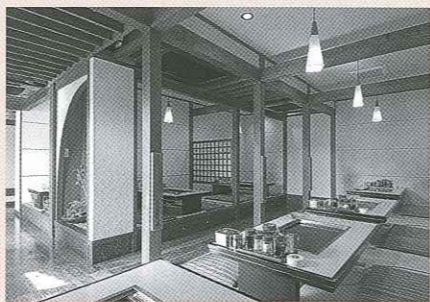


今月20周年を迎えた「こけし」。お父さんの味を引き継いで、さらに勉強を重ねて店作りにも励む長島さんは二代目の若きオーナー。豚バラ天や牛スジを頼んでも、なぜか胃に重たくない。トッピングに油かすを入れたのにどうしてこんなに軽いのかしら? 「粉がちがうんですよ。油かすは生地に混ぜてなめらかさを出す。好きずきですけど」と長島さん。ソースもちがうみたい…。「ソースもオリジナルです。この味にたどり着くまで結構大変だった」。そうでしょう、そうでしょう、だっておいしいもの。もんじゃ焼きはお店の方に頼めば焼いてくれます。チーズ餅、うめじそ、そばえびなどがお勧めメニュー。ところで、この「こけし風チーズフォンデュ」って? 「ぶつうのチーズフォンデュですよ。サイドメニュー。うちはお好み焼き屋だから、そちらがメイン」。でもなんか気になる。今度は注文してみようっと。

〒190-0021  
立川市羽衣町3-3-13  
TEL 042-526-1267  
●営業時間  
11:30～14:00  
17:00～23:00  
●定休日 木曜日



写真: 五来孝平



### えくてびあん流

## ひろさちや氏を迎えて

11月26日 第2回 応現院文化講演会開催

この春、泉町に落慶した真如苑の寺院「応現院」で11月26日、宗教思想についての多くの著作で知られる、ひろさちや氏を講師に迎えた公開講座「第2回 応現院文化講演会」が開かれる。



ひろさちや氏は1936年大阪生まれ。東大文学部インド哲学科卒、同大学院博士課程修了。気象大学教授として教壇に立つ一方、仏教を中心に宗教思想を研究、『釈迦とイエス』『ひろさちやの般若心経88講』『仏教の歴史』(全10巻)など多くの著書のほか、講演などで幅広い支持を得ている。大正大学客員教授。

「応現院文化講演会」は、寺院を地域の文化交流の場として提供していくことを目的に、応現院文化講演会実行委員会が主催して広く一般市民を対象に無料で実施しているもので、6月、奈良・薬師寺の安田映胤管主を講師に開かれた第1回講演会は、約1200名が聴講した。

ひろさちや氏の講演を聴講希望の方は往復葉書で申し込む。先着順で定員1300名(中継会場を含む)。講演概要と申込先は下記の通り。

### 第2回 応現院文化講演会

ひろさちや氏

「そのまま・そのまま  
—あなたはあなたであっていいです—」

日時: 2006年11月26日(日) 午後3時開演  
(午後2時開場。講演は約1時間半)

会場: 応現院 3F (立川市泉町935-27)

■主催: 応現院文化講演会実行委員会 ■後援: 立川商工会議所、立川観光協会、立川バス株式会社  
■協力: 株式会社 精神文化映像社、えくてびあん、多摩ではこネット ■協賛: 真如苑

## 細江英公さんに「ルーシー賞」

12月から東京都写真美術館等で写真展

『えくてびあん』表紙の撮影者である写真家・細江英公さんに「写真界のアカデミー賞」とも呼ばれる米国「ルーシー賞」の2006年ビジョナリー(先見的業績)部門賞が贈られることになった。贈呈式は10月30日、ニューヨークで行われる。

細江さんはこれまでも、2003年英国王室写真協会創立150周年特別勲章、2006年アメリカ・サンディエゴ・写真美術館 Century Award for Life Achievement など数々の国際的賞を受けているが、今回の「ルーシー賞」では、細江さんが館長をつとめる清里フォトアートミュージアム(長野県北杜市)が若手写真家から作品を募り優秀作品を買上げる「ヤングポートフォリオ展」の取り組みなどが高く評価された。同賞の日本人の受賞は初めて。同賞の大賞に当たる生涯業績部門には、これまでにアンリ=カルティエ=ブレッソン、ゴードン・パークス、ウィリアム・クラインらが選ばれている。

また、12月9日から恵比寿の東京都写真美術館で大型個展「球体写真二元論: 細江英公の世界」が開かれるほか、都内ギャラリーで関連する個展が相次いで開かれる。近々刊行される今年100歳の舞踏家・大野一雄の写真集のほか、美術評論家ヨシダ・ヨシエの撮影など、精力的な制作を続ける細江さんの、過去・現在・未来が多面的に紹介される。

【申込】住所、氏名、年齢、電話番号、希望人数(本人を含め3名まで)を明記し、往復葉書を申込先に郵送。

【申込先(問合せ先)】 応現院文化講演会実行委員会事務局  
(えくてびあん内) 〒190-0012 立川市曙町2-17-5  
杉田ビル3F 電話 042-523-9898

【締切】11月6日(月) 必着

【定員】先着700名(メイン会場) / 600名(中継会場)

※返信葉書で結果をご通知します。

### たすかわ散歩道 ④

## 立川の城跡と古戦場を訪ねて

段丘沿いの散策路 挿絵と文 ■ 森 信保

立川市のある武蔵野台地は、西の西砂町から東または東南にかけてゆるやかな傾斜の台地で旧残堀川が流れていた。この台地はいくつかの段丘に分かれ、この地域は立川段丘と呼ばれ、また、多摩川の低地との間には青柳段丘という小さな段丘がある。今回は、縄文時代から多くの人が住んだこの地の段丘沿いを散策してみる。

西国立駅から南武線の踏切を渡り、立川共済病院の南側を通り国立方面の大通りへ。この付近が室町時代中頃、「立河原の合戦」として府中市の分倍河原からこの地にかけて合戦が二度にわたって行われた中心的場所(旧残堀川下流)であり、2000人以上が戦死したといわれる。①それを供養した塚が明治時代頃まで立川高校の東北にあったという(戦死者供養鉦鼓レプリカは立川市歴史民俗資料館展示)。

「みのわ通り」(旧緑川覆蓋)を南へ。この地域は向郷ともいい、広い範囲に古代縄文時代の住居跡などの遺構が見つかり、立川古代史を語るには大切な遺跡場所でもある。

立河氏一族の支城であったともいわれる「みのわ城」②へは、そこから大通り交差点を左折して立川斎場方向へ。浄土真宗光西寺前を少し上がると立川台地のほぼ南端になる見晴らし場所がある。立河氏の見張りの砦(みのわ城)としては最適の場所とも思える。

段丘を国立方面に進み下ると右が矢川公園(矢川緑地保全地域)③。清流と湿原を見



行程 西国立駅—①立河原合戦地—②みのわ城(館・砦)—③矢川公園—  
④矢川弁天—⑤江戸道(鷹匠道)—⑥立川城跡(普濟寺)



立河氏館跡の土塁

ながら階段を上り、再び大通りを横断して右に下ると改築された「矢川弁天」④が目につく。この付近は、昔から水量が豊富で「田んぼ」や「わさび田」などもあった場所。

今回は段丘上の府中・江戸道の古道を避けて、段丘下の覆蓋された矢川に沿いながら、源流の市立第七小学校東側を通り、府中からの江戸道⑤に合流する。

都立立川高校の西沿いから奥多摩街道を横断し、柴崎町の段丘上を通り再び古道に入り、大和田・沢の住宅街を抜けると臨済宗建長寺派普濟寺の門前通りへ。

この柴崎地域は鎌倉時代、立川郷とも言われ、立河氏の所領地。立河氏は武蔵七党の西党の一族で、平安時代の末期から鎌倉時代の関東内乱時には、たびたび上杉氏の本陣地が置かれたところでもある。多摩川に面した段丘台地は険阻な断崖をなし、城館が営まれるにはふさわしい位置だ。多摩川を眼下に、遠くには奥多摩から丹沢の山々を一望に見渡せ、富士山を正面にした素晴らしい景勝の地。立河氏一族が中世の武蔵野で生き抜いた時代の面影が偲ばれる。

### 表紙の人

## 本岡 進さん(富士見町)

蕎麦は、食す方も打つ方にも、こだわりが多い。立川には、そういう蕎麦通をうならせる蕎麦店主が少なくない。富士見町団地に近い「手打ちもとおか」主人は、知る人ぞ知る蕎麦打ち。この春まで錦町にあった店をたたみ、悩んだ末に、原点ともいべき富士見町の自宅1階の小さな店を再開した。産地ごとの原蕎麦にこだわり、毎日自ら石臼で粉を挽き、蕎麦を打つ。蕎麦粉だけの十割蕎麦はつゆのほかに、これもこだわりの塩で蕎麦そのものの香りを味わってもらう。そろそろ新蕎麦のおいしい季節だ。

打ち場で 写真: 細江英公

### かたこと

まずお叱りをいただいたことから▼9月号本欄で、お諏訪さまのお祭りについて「立川の夏祭」と名称は変わっても……というようなことを書きましたら、読者の方から「諏訪神社例大祭は変わっていない」と▼編集者としては、行政や経済団体の呼び方は、のつもりだったので確かに言葉足らずでした。申し訳ないことでした▼いつまでも未熟な編集者は、言葉はむずかしいといつも痛感しています。書き言葉もそうですが、話す言葉も▼対談は江戸以来の断=語りの芸能である落語。この秋50回記念の会を開く立川落語会の笑南亭南笑さん▼言葉ひとつで人を勇気づけたり楽しめたりすることも、逆に人を刺す刃になったり悲しくさせたりも▼人を笑わせ楽しい気持ちにさせる言葉は話して言葉で人に伝える話芸は、実は今の世の中に求められているのかもしれません▼秋も更けて、VIEWでご紹介している草むらの虫たちに耳を傾けるもよし、芸術の秋を満喫するもよし、秋の稔りに舌鼓を打つもよし▼<この人この店>は羽衣町のお好み焼き屋さん。だんだんと温かいものがうれしくなる季節です。食べものばかりでなく、えくてびあんの誌面からも、読者の皆さんの心に温もりが伝わってほしいなと願います。(芳)

### スタッフ

編集 大久保清志/清水恵美子/中薫子  
デザイン 池田隆男(WATER DESIGN ASSOCIATES)  
AMNET design factory  
写真 小川達実/五来孝平/中村 伸

### えくてびあん ④ 11月号

第25巻 通巻264号  
平成18年11月1日発行  
発行 えくてびあん編集工房  
〒190-0012  
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F  
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065  
編集人 芳賀敏博  
発行人 加賀悦也  
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。

## 【栗まんじゅう】

この照りは「栗まんじゅう」。丸まるとよく実った栗のよう。白あんに刻んだ栗が混ざってある。紙の包みを開けたとき、ふわっと鼻にとどく焼きまんじゅうの香り。どこか懐かしく、掌にのせれば温もりさえ伝わってくる。

(梅乃/栄町)

# 立川和菓子ものがたり

目に美しく食して美味 ⑩

## 【季節の煉り切り】

コスモスが一面に咲き、イチヨウが色づく準備を始める。そよぐ風にトンボがツイ、ツイと泳いでいる。昭和記念公園で秋色を満喫した帰り道、街なかに咲く花を見つけた。白あんのやさしい甘さが、歩き疲れた体にうれしい。

(日乃出屋本店/曙町)

